

令和7年度組織目標



部局名	文化スポーツ部
R7年度に特に注力する事項(目標)	<p>○国スポ・障スポ大会を成功に導き、湖国の感動を未来へつなぐ！</p> <p>目標： <ul style="list-style-type: none"> ・多様な関わりと協力を得ながら、「する」「みる」「支える」全ての人々が輝ける、滋賀らしい「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」を開催し、成功に導く ・一人ひとりが輝く未来の滋賀に向け、国スポ・障スポ大会のレガシーを継承 </p>
	<p>○主要プロジェクトを着実に推進し、文化とスポーツを軸に多様な主体とともに滋賀を元気に！</p> <p>目標： <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県の地域全体、県民全体の文化力向上に向けて、文化振興基本方針を改定 ・健康医療福祉部とともにアートによる社会的処方意義や効果を研究し、仕組みづくりを検討 ・彦根城世界遺産登録推進や安土城築城450年等の機会を捉えた本県文化財の情報発信や活用 ・地域が支える「滋賀の新しい部活動」始動に向けた取組および地域における障害者スポーツの定着に向けた取組の推進 ・プロスポーツ等との連携強化、大規模イベントを活用したスポーツが持つ力の最大化 </p>
	<p>○文化スポーツ拠点施設の機能強化・活性化により、滋賀ならではの体験を世界へ！次世代へ！</p> <p>目標： <ul style="list-style-type: none"> ・びわ湖ホール、希望が丘文化公園や県立美術館等の機能強化と活性化 ・新しい琵琶湖文化館や埋蔵文化財センター等の文化財の保存・活用の中核施設の整備やあり方検討に向けた取組の加速 ・様々なスポーツの活性化の基盤となる県立スポーツ施設を活用した攻める施設運営 </p>
	<p>○環境負荷に配慮した事業の実施・検討</p> <p>目標： <ul style="list-style-type: none"> ・「わたSHIGA輝く国スポ・障スポMLGs宣言」に基づく取組を、大規模イベント開催におけるモデルケースに ・文化スポーツ施設の整備・運営にあたり、環境負荷への配慮を徹底（新しい琵琶湖文化館においてZEB Ready化や太陽光発電導入。その他施設においても、照明LEDや空調の高効率化などの環境配慮を推進） </p>

所属名	文化芸術振興課
R7年度に特に注力する事項(目標)	<p>○滋賀県文化振興基本方針 (R3~7)の推進と次期方針(R8~12)の策定 「場をつくる」「人を育む」「地域や社会に活かす」 + 「子どもの体験活動の充実」「北部振興」「活動支援組織の構築」</p> <p>目標： ・学校と連携した文化芸術プログラムの参加児童数 <u>26,000人</u> ・障害者等の文化芸術活動を支える拠点づくり <u>4か所以上</u> ・文化芸術活動・アーティストを支援する組織(仕組み)の構築</p>
	<p>○所管施設の機能強化・活性化 (びわ湖ホール、文化産業交流会館、美術館、希望が丘文化公園)</p> <p>目標： ・びわ湖ホール大規模改修の入札、休館中の取組の検討などびわ湖ホールの再開 館に向けた着実な事業の推進 ・希望が丘文化公園活性化事業の公募準備と現運営法人のあり方検討</p>
	<p>○美術館の魅力向上と滋賀の多様な美の魅力の発信</p> <p>目標： ・美術館整備基本計画の策定 (R8.3) ・経済界や県内外ミュージアムとの連携によるナイトミュージアム等の実施 ・福祉施設等との連携によるアートによる社会的処方への仕組みづくりに向けたモデル事業の実践</p>
	<p>○【見直し・効率化】課室内協議の効率化 (時間管理の徹底)</p> <p>目標： あらかじめ論点を整理し到達点を共有するなどして効率化を図り、1回の協議時間を概ね30分以内とする。</p>

所属名	文化財保護課
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○「幻の安土城」復元プロジェクトの着実な推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和の大調査の推進(次世代文化財技師の育成)および環境整備の実施 ・デジタルによる見える化アプリの運用開始(R7.10～) ・築城450年祭の開始(R7.11～R8.12) ・万博で来日するパチカン関係者の招聘・交流事業実施
	<p>○琵琶湖の水中遺跡魅力発掘・発信の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖の水中遺跡保存活用基本構想の策定（史跡指定等の候補となる調査対象の検討） ・県主催の講演会・展示会および文化庁主催『発掘された日本列島 2025』での魅力発信
	<p>○埋蔵文化財センターの機能強化検討の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター建物の今後の取扱いについて基本的な方針を決定 ・R7策定の「琵琶湖の水中遺跡保存活用基本構想」を反映
	<p>○新しい琵琶湖文化館整備の着実な推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築業務の推進、開館に向けた機運の醸成（県民フォーラム等） ・周辺地域の賑わいや文化観光活動を実現するための、地元市や経済団体等の地域関係者との関係づくり
	<p>○文化財の活用事業の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の価値・魅力発信のための講座・セミナー等 50回以上（うち県外向け活用事業10回以上）、参加者数3,500人以上 ・県内各地への文化財探訪につなげる周遊イベントの実施 3回以上
	<p>○彦根城世界遺産登録に向けた国内推薦の決定</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化審議会世界文化遺産部会の審議への的確な対応 ・事前評価結果を反映した推薦書（暫定版（9月）・完成版（1月））の作成 ・イコモスの現地調査への準備（リハーサル2回） ・大阪・関西万博、国スポ・障スポ大会での機運醸成（ブース出展）
	<p>○【見直し・効率化】事務手続きの電子化の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財関係届出業務などの電子化検討 1件

所属名	スポーツ課
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○地域の誇りと活性化につながるシンボルスポーツ定着の促進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町が取り組むシンボルスポーツ定着に向けた支援(19競技) ・国スポ・障スポ競技（デモンストレーション含む）の発信(88競技) ・滋賀の障害者スポーツ定着に向けた取組(総合型スポーツクラブ18団体)
	<p>○プロスポーツ等を活用した滋賀のスポーツの未来を切り開く取組の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツチーム(7)との連携強化 ・大規模大会誘致など県立施設を活用した攻める施設運営(10施設) ・びわ湖マラソン、インターハイ、ワールドマスターズなど大規模イベントを活用したスポーツが持つ力の最大化 ・各分野での新しいスポーツ（eスポーツ・アーバンスポーツ）活用
	<p>○地域が支える「滋賀の新しい中学校部活動」始動に向けた取組の推進</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や市町への「滋賀モデル」の提案および意見交換（月1回程度） ・中学生を含む様々な方との対話による理解促進（月1回程度） ・地域の指導者(170人)の育成・確保、受け皿となる団体支援
	<p>○【見直し・効率化】DXを活用した県施設予約システムの整備</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立施設予約における県民の利便性、および業務の効率性向上に向けた取組

所属名	国スポ・障スポ大会局
	<p>○ 着実な開催準備と安全・安心な大会運営</p> <p>目標： ・みんなが輝く大会に（環境・おもてなし・共生社会・子ども、若者、女性活躍） ・滋賀ならではの共生社会型会場の実現（全ての会場にカームダウンスペース、授乳室、おむつ替えスペース設置） ・安全に大会を楽しめる会場の設営（警備、交通対策、医療救護などの体制整備） ・選手等が安心して大会に参加できる配宿・輸送（宿泊施設・輸送バス確保完了） ・すべての人が主役となれる心に残る開会式開催を目指す（滋賀県選手団アンケート 満足度100%）</p>
	<p>○ 県民誰もがわくわくする大会に</p> <p>目標： ・国スポ・障スポともに認知度100% ・県民の大会準備やおもてなし等への参画と企業・団体による寄附・協賛や広報啓発等への支援拡大</p>
	<p>○ 滋賀の選手団が輝く大会に</p> <p>目標： ・国スポでの天皇杯、皇后杯獲得 ・障スポでの全競技選手出場 ・滋賀県選手団を後押しする応援団編成</p>
	<p>○ 湖国の感動 未来へつなぐ（レガシー継承）</p> <p>目標： ・「支える」文化の醸成（ホスピタリティ溢れるボランティアの養成とゴールドenspōーツイヤーズへの接続） ・大会を通じ得られたヒト・モノ・ノウハウを一過性のものにせず、県民が大会の成果を享受できる令和8年度の体制検討</p>

局内室名	総務企画室
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○選手ファーストで誰もが主役の開・閉会式式典</p> <p>目標： ・すべての人が主役となれる心に残る着実な式典開催 ・選手団アンケート 満足の割合：100%</p> <p>○「みんなが輝く大会に」</p> <p>目標： ・環境に優しく、滋賀の魅力を活かしたおもてなしのもと、共生社会の実現と子ども・若者・女性など多様な人々が活躍する大会の着実な開催</p> <p>○レガシー2025創出推進本部を基盤にした取組推進</p> <p>目標： ・レガシー創出へ部局を横断した企画・立案への情報共有・調整を図り施策の具体化を図る。</p> <p>○【見直し・効率化】式典準備・開催業務の効率化</p> <p>目標： ・進捗状況に応じた分担見直しとデジタルツールの活用等により着実な開催</p>

局内室名	広報・県民運動室
R7年度に特に注力する事項（目標）	○県民の大会への期待感を高める広報 目標： ・国スポ・障スポともに認知度100%
	○多くの県民、企業・団体が参画する大会づくり 目標： ・県民の大会準備やおもてなし等への参画 ・企業や団体による寄附・協賛や広報啓発等への支援拡大
	○大会レガシーとなる「支える」文化の醸成 目標： ・ホスピタリティ溢れるボランティア（運営、手話・要約筆記）、選手団サポーターの養成 ・大会後のスポーツボランティア等への参画につなげる取組の充実
	○【見直し・効率化】市町と連携した大会機運の盛り上げ 目標： ・啓発やシティドレッシング等、大会に向けた機運醸成を市町と連携して一体的に展開

局内室名	競技運営室
R7年度に特に注力する事項（目標）	○県運営競技会（本大会）の着実な開催（国スポ5競技、障スポ14競技） 目標： ・滋賀ならではの会場設営（カームダウンスペース、バリアフリー対策、授乳室、ウォーターサーバー設置）および表彰式（わたSHIGA輝く賞、メダルの授与）の実施 ・競技団体、関係市町との連携強化、実施本部員の接遇、おもてなしの充実など、関係者や来場者に配慮した円滑な運営準備
	○競技会開催準備の推進 目標： ・リハーサル大会（障スポ14競技、国スポ馬術）を着実に開催し、本大会に向けた課題等を検証する。 ・市町への開催支援（リハーサル大会補助金、情報提供や各競技への助言など）の継続
	○参加申込および競技記録業務の着実な実施 目標： ・大会前、大会期間中の迅速かつ正確な実施（記録本部設置、システムによる運用、複数職員でのチェック、集中的な対応）
	○【見直し・効率化】競技会運営における簡素・効率化の実施 目標： ・県外開催競技への民間委託導入（実施本部員、経費削減） ・プログラム関係の電子化の実施（紙削減） ・WEB会議の一層の活用（関係団体との打ち合せ時間短縮）

局内室名	施設調整室
R7年度に特に注力する事項（目標）	○安全・安心な開・閉会式の開催 目標： ・会場の仮施設整備（バリアフリー対策含む）、警備、交通対策、医療救護などの適切な実施により万全の体制を整える。
	○市町競技施設整備の支援 目標： ・リハーサル大会、本大会にかかる市町の競技施設整備の完了
	○配宿および輸送の着実な実施 目標： 【配宿】 宿泊要項見直しに伴う対応準備のほか、障スポ宿泊にかかるバリアフリー対応を含め、円滑な配宿体制を整える。 【輸送】 バス確保を完了するとともに、選手団等の円滑な輸送と障害のある方や高齢者等が安心して来場できる輸送体制を整える。
	○【見直し・効率化】公共交通機関を活用した環境にやさしい開・閉会式輸送の実施 目標： ・一般観覧者等の彦根駅からの徒歩参集の円滑な実施

局内室名	競技力向上対策室
R7年度に特に注力する事項（目標）	○2025国スポ総合優勝に向けた選手・チーム支援 目標： ・滋賀国スポに出場する本県選手団が、これまでの強化の成果を余すところなく発揮し、目標である総合優勝を成し遂げられるよう強化活動を支援 ・多くの県民の応援のもと競技に臨めるよう、SNSや各種メディアを通じた選手の活躍情報の事前発信（大会までにのべ120回以上）、競技当日の応援団編成（声出し応援を希望する全競技）をサポート
	○2025障スポにおける本県選手の活躍支援 目標： ・滋賀障スポの全競技・全種目に出場する本県選手が、本番となる大会に自信を持って臨めるよう、競技別練習会の開催を支援 ・大会運営や選手派遣と連携し、SNSや各種メディアを通じた選手の活躍情報の事前発信（大会までにのべ50回以上）を実施
	○令和8年度以降に向けたレガシー継承 目標： ・「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」を通じ得られた、本県のスポーツ振興を支えるヒト・モノ・ノウハウといった成果を一過性のものにせず、すべての県民が持続的に享受できる体制を確立するための方針・計画を年度内に策定
	○【見直し・効率化】出場選手にかかるメディカルチェックの効率化 目標： ・スマートフォンアプリを活用したメディカルチェックシステムの運用を通じ、本県選手団の活躍をサポート